J

ホームシアターパッケージ
（AV アンプ・サブウーファー ＋ スピーカー）

YHT-S400
(SR-300 + NS-BR300)

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買い上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

取扱説明書

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

電源/電源コード

必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- **異常なにおいや音がする。**
- **異常に高温になる。**
- **内部に水や異物が混入した。**
- **煙が出る。**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

電源コードを傷つけない。

- **重いものを上に載せない。**
- **ステープルで止めない。**
- **加工をしない。**
- **熱器具には近づけない。**
- **無理な力を加えない。**

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

本機の⏻キーでスタンバイ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。

本機を完全に電源から切り離すためには、電源コードをコンセントから抜いてください。

電池

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

禁止

電池を加熱・分解したり、直射日光にさらしたり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

分解禁止

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。
- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。

禁止

放熱のため本機を設置する際には:
- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

(本機の周囲に左右5cm、上5cm、背面5cm以上のスペースを確保する。)

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

必ず実行

スピーカーケーブルは必ず壁などに固定する。

ケーブルに足や手を引っかけるとスピーカーが落下や転倒し、故障やけがの原因となります。

使用上の注意

禁止

放熱用のパネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。

必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ

必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源/電源コード

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

電池

必ず実行

電池は極性表示(プラス＋とマイナス－)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

必ず実行

必ず2人以上で開梱や持ち運びをする。
重いので、けがの原因になります。

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

禁止

スピーカーの底面積より狭い場所や傾斜のある場所には設置しない。
スピーカーが落下や転倒して、けがの原因になります。

注意

機器を接続する場合は、接続する機器の電源を切る。

必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

禁止

他の電気製品を本機の上に置かない。
本機の上部は高温になります。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

必ず実行

屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。
工事には、技術と経験が必要です。

移動

プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意

必ず実行

電源を入れる前や、再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

注意

本機はデジタル信号を扱います。ほかの電気製品に障害をあたえるおそれがあります。
それらの製品とはできるだけ離して設置してください。

禁止

業務用機器とは接続しない。
デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

手入れ

必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。

禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。
ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

目次

はじめに

準備

基本操作

応用操作

その他の情報

■ 本書の記載について

- 本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。
- 「ヒント」では、知っておくと便利な補足情報を記載しています。「**ご注意**」では、安全に関する重要な注意事項と操作方法を記載しています。
- 本書は製品の生産に先がけて印刷されています。製品改良などの理由で、実際の製品と仕様が一部異なる場合がございますのでご了承ください。

音を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。
適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

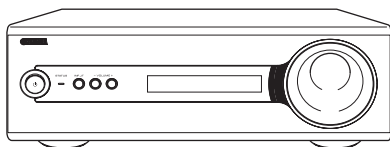
はじめに

はじめに

付属品を確認する

ご使用になる前に、同梱されている付属品がすべてそろっていることをご確認ください。

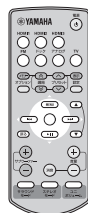
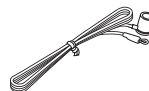
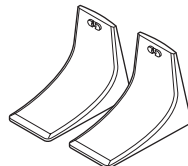
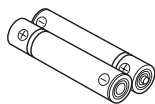
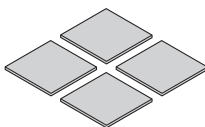
■ YHT-S400 の構成

AV アンプ・サブウーファー
（SR-300）

スピーカー
（NS-BR300）

■ 付属品

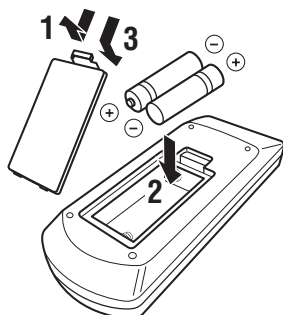
スピーカーケーブル
（3m）

光ファイバー
ケーブル（2m）

リモコン

FM 簡易アンテナ

スタンド 2 個
（スピーカー用）

単 4 電池 2 本

滑り止めパッド 4 枚

ネジ 2 本
（スタンド用）

取扱説明書

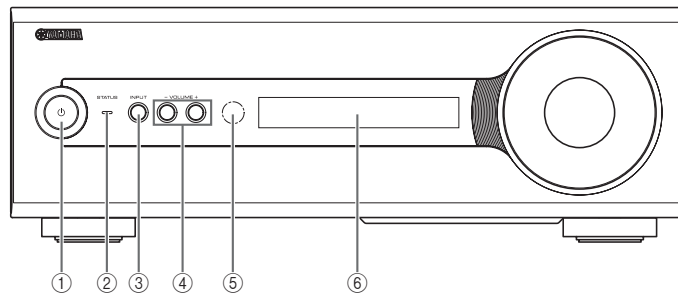
取付用テンプレート

■ リモコンに電池を入れる

ご注意

- リモコンで操作できる距離が極端に短くなった場合、早めに新しい電池と交換してください。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類の異なる電池（アルカリとマンガンなど）を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも、性質の異なる場合がありますのでご注意ください。
- 使い切った電池は、ただちにリモコンから取り出してください。リモコンに挿入したままにしておくと、破裂や液漏れの原因となります。
- 使い切った電池は、地域の条例または取り決めに従って廃棄してください。
- 電池が液漏れしている場合は、ただちに電池をリモコンから取り出し、廃棄してください。その際、肌や衣服が漏れているバッテリー液に触れることのないよう十分ご注意ください。リモコンにバッテリー液が付着している場合はきれいに拭き取ってから新しい電池を挿入してください。

各部の名称とはたらき

■ AV アンプ・サブウーファーのフロントパネル（前面）

① ⏻（電源）キー

電源のオン／スタンバイを切り替えます（☞ 10 ページ）。

ご注意

スタンバイの状態でも、リモコンからの赤外線信号を受信するために少量の電力が消費されます。

② STATUS（ステータス）インジケーター

システムの状態を表示します。（☞ 10 ページ）。

③ INPUT（インプット）キー

再生する機器を選択します（☞ 10 ページ）。

④ VOLUME（ボリューム） − /+ キー

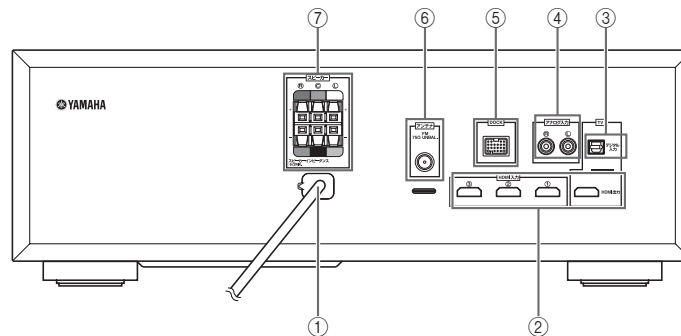
音量を調節します（☞ 10 ページ）。

⑤ リモコン受光部

リモコンの赤外線信号を受信します（☞ 5、10 ページ）。

⑥ フロントパネルディスプレイ

再生の状態や設定値などを表示します（☞ 4 ページ）。

■ AV アンプ・サブウーファーのリアパネル

① 電源コード

電源コードをコンセントに接続します（☞ 8 ページ）。

② HDMI ①-③ 入力端子 / HDMI 出力端子

- HDMI ①－③ 入力端子はHDMI対応の外部機器を接続します（☞ 9 ページ）。
- HDMI出力端子は、HDMI対応のテレビを接続します（☞ 9 ページ）。

③ デジタル入力端子

付属の光ファイバーケーブルでテレビのデジタル出力端子と接続します（☞ 9 ページ）。

④ アナログ入力端子

外部機器をオーディオケーブルで接続します（☞ 8 ページ）。

⑤ DOCK（ドック）端子

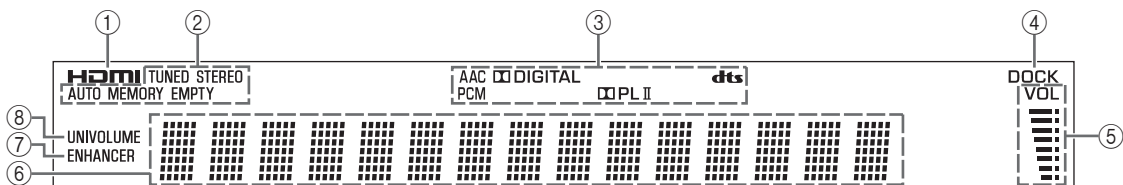
別売のヤマハ製iPod ユニバーサルドック（YDS-11など）やBluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（YBA-10など）を接続します（☞ 14 ページ）。

⑥ アンテナ端子

付属のFM アンテナを接続します（☞ 8 ページ）。

⑦ スピーカー端子

スピーカーを接続します（☞ 8 ページ）。

■ AV アンプ・サブウーファーのフロントパネルディスプレイ

① HDMI インジケーター

入力ソースとしてHDMI を選択したとき、正常に信号受信が行われると点灯します。

② チューナーインジケーター

TUNED（チューン）インジケーター
ラジオを受信しているときに点灯します
（☞ 12 ページ）。

STEREO（ステレオ）インジケーター
自動（オート）選局モードで FM ステレオ放送の強い信号を受信しているときに点灯します
（☞ 12 ページ）。

AUTO（オート）インジケーター
自動的に放送局を登録（サーチ）しているときに点滅します（☞ 12 ページ）。

MEMORY（メモリー）インジケーター
放送局を登録中に点滅します
（☞ 12、13 ページ）。

EMPTY（エンプティー）インジケーター
プリセット番号が空のときに点灯します
（☞ 13 ページ）。

③ デコーダーインジケーター

- 本機に内蔵されているデコーダーが作動しているときにそれぞれのインジケーターが点灯します。
- PCM（Pulse Code Modulation）信号、または AAC（Advanced Audio Coding）信号を再生しているときに点灯します。

④ DOCK（ドック）インジケーター

- AVアンプ·サブウーファーのDOCK（ドック）端子に接続したヤマハ製 iPod 用ドック（別売 YDS-11 など）にセットした iPod を本機が認識しているときに点灯します（☞ 14 ページ）。
- ヤマハ製Bluetoothワイヤレスオーディオレシーバー（別売 YBA-10 など）と Bluetooth 機器が接続されたときに点灯します（☞ 15 ページ）。
- ヤマハ製Bluetoothワイヤレスオーディオレシーバー（別売 YBA-10 など）と Bluetooth 機器をペアリングしている（☞ 15 ページ）、またはヤマハ製Bluetoothワイヤレスオーディオレシーバーが Bluetooth 機器をサーチしている（☞ 15 ページ）ときに点滅します。

⑤ VOLUME（ボリューム）インジケーター

- 現在の音量を VOLUME（ボリューム）インジケーターで表示します。
- 本機を消音（ミュート）しているときに点滅します（☞ 10 ページ）

⑥ マルチインフォメーション・ディスプレイ

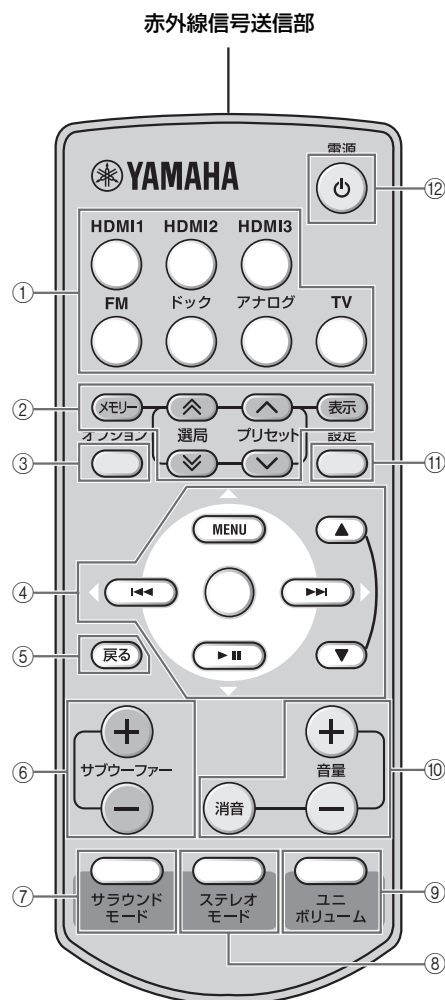
選択されている入力、現在のサラウンドモードやその他の情報を表示します。

⑦ ENHANCER（エンハンサー）インジケーター

コンプレストミュージック・エンハンサー機能が作動しているときに点灯します（☞ 14 ページ）。

⑧ UNIVOLUME（ユニボリューム）インジケーター

ユニボリューム機能がオンのときに点灯します
（☞ 11 ページ）。

■ リモコン

① 入力キー
再生する機器を選択します（☞ 10 ページ）。

② メモリー、選局 ⩓／⩔、プリセット∧／∨、表示キー
FM 放送局の選局に使用します（☞ 12 ページ）。

③ オプションキー
FM 操作時や Bluetooth 機器を使用するときに、オプションメニューに入ります（☞ 12、15 ページ）。

④ カーソル（△（MENU）／◁（⏮）／▷（⏭）／▽（►II））、◯（センター）キー
- 設定を変更します。
- iPod を操作します（☞ 14 ページ）。

▲/▼: iPod ホイールを操作します。

⑤ 戻るキー
1 つ手前のメニュー表示に戻したり、プリセット登録やペアリングの動作を中断させたりします。

⑥ サブウーファー（+／−）キー
サブウーファーの音量のバランスを調節します（☞ 17 ページ）。

⑦ サラウンドモードキー
サラウンドモードを選択します（☞ 11 ページ）。

⑧ ステレオモードキー
拡張ステレオ機能のオン／オフを切り替えます（☞ 11 ページ）。

⑨ ユニボリュームキー
ユニボリューム機能のオン／オフを切り替えます（☞ 11 ページ）。

⑩ 音量（+／−）、消音キー
音量を調節します（☞ 10 ページ）。

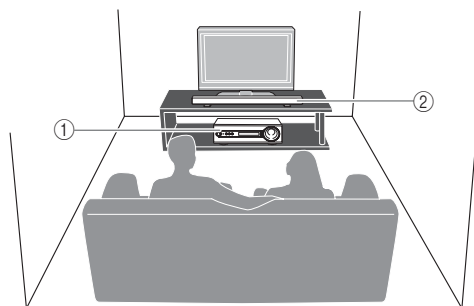
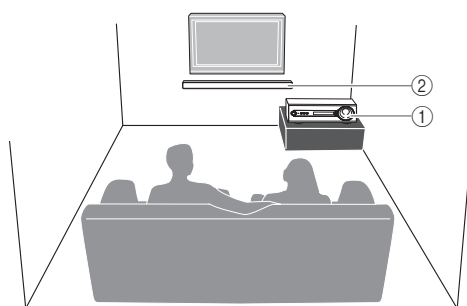
⑪ 設定キー
設定メニューに入ります（☞ 16 ページ）。

⑫ ⏻（電源）キー
電源のオン／スタンバイを切り替えます（☞ 10 ページ）。

準備

システムの設置

臨場感あるサラウンドを十分にお楽しみいただくためには、システムを安定した場所に適切に設置する必要があります。本システムの設置イメージは以下のようになります。

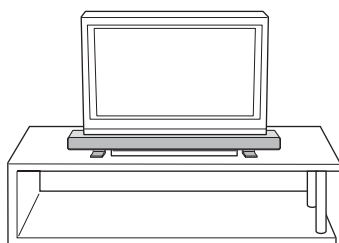
例 1：スピーカーをテレビの前に置いた場合

例 2：スピーカーを壁に取り付けた場合

① AV アンプ・サブウーファー（SR-300）
② スピーカー（NS-BR300）

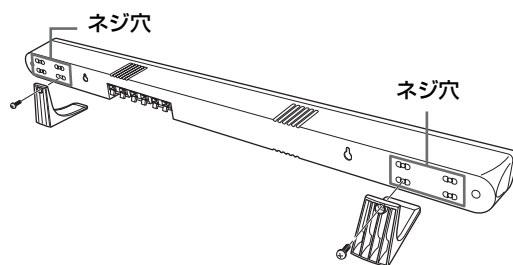
ご注意

- 本システムをブルーレイディスクレコーダーなどの上や下に直接置かないでください。本システムの振動により外部機器の故障をまねく恐れがあります。
- 本システムの横、後ろおよび下の通気をよくしておいてください。また、厚いカーペットなどの上には設置しないようにしてください。
- ブラウン管テレビの映像が乱れる場合は、本機をテレビから離して設置してください。
- 低音の聴こえかたは、AV アンプ・サブウーファーを置く位置や聴く位置によって異なりますので、設置場所を変えてお楽しみください。
- 設置状況によっては､テレビやブルーレイディスクレコーダーなどの外部機器を接続してから本機を設置したほうがよい場合もあります。一度仮置きをして設置状況を確認し、設置と接続のどちらから行うか決定することをおすすめします。

スピーカーの設置

ラックまたは壁に取り付けます。環境に適した設置方法を選んでください。

■ スピーカーをテレビの前に設置する

- テレビスタンドをまたいで設置する場合には、付属のスタンドを使用してください。
- スタンドを取り付けないで設置する場合は、スピーカーの底面に付属の滑り止めパッドを取り付けてください。
- スタンドを取り付けたスピーカーがテレビのリモコン受光部を隠す場合は、スタンドをはずして設置してください。

下図のように、スピーカーにスタンドを取り付け、付属のネジで固定してください。

ご注意

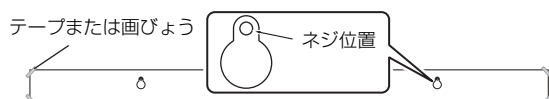
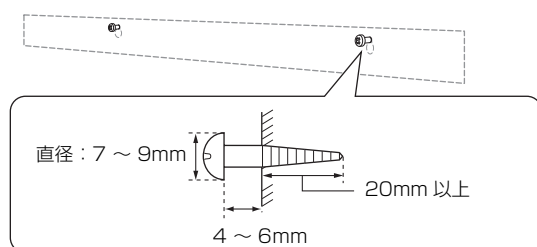
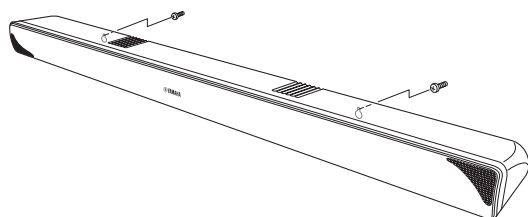
スタンドを取り付ける位置を選んで、スピーカーを水平に設置する幅と高さを調節することができます。上図の例は、スピーカー背面の内側下段のネジ穴にスタンドを取り付けています。

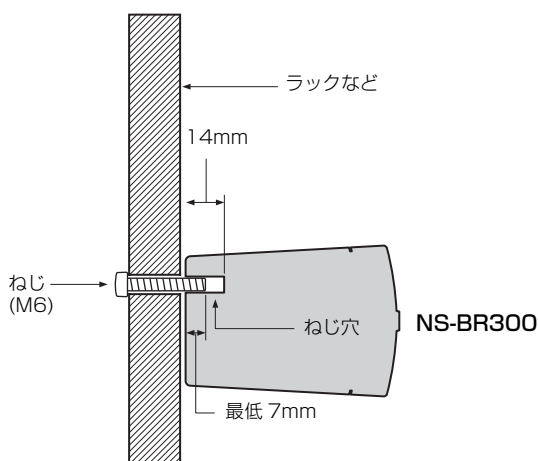
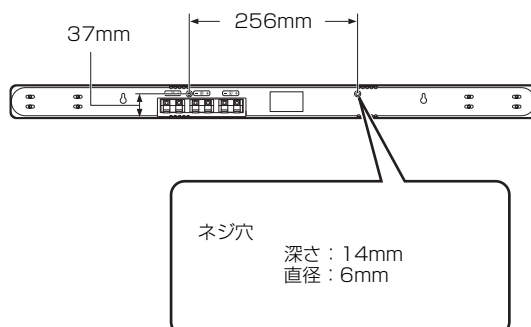
■ スピーカーを壁に設置する

キーホールを使用して設置する

市販のネジ（ネジ頭の直径 7 ～ 9mm）を使用して壁に設置します。

スピーカーを壁に設置する際は、専門の業者または販売店に依頼してください。お客様ご自身で作業を行わないでください。設置方法を間違えると、スピーカーが落下し、けがの原因になります。

1 壁に付属の取付用テンプレートを取り付け、ネジ位置の印をつけます。

2 取付用テンプレートを取り外し、印をつけた位置に市販のネジを取り付けます。

3 スピーカーをネジに掛けて設置します。

ネジ穴を使用して設置する

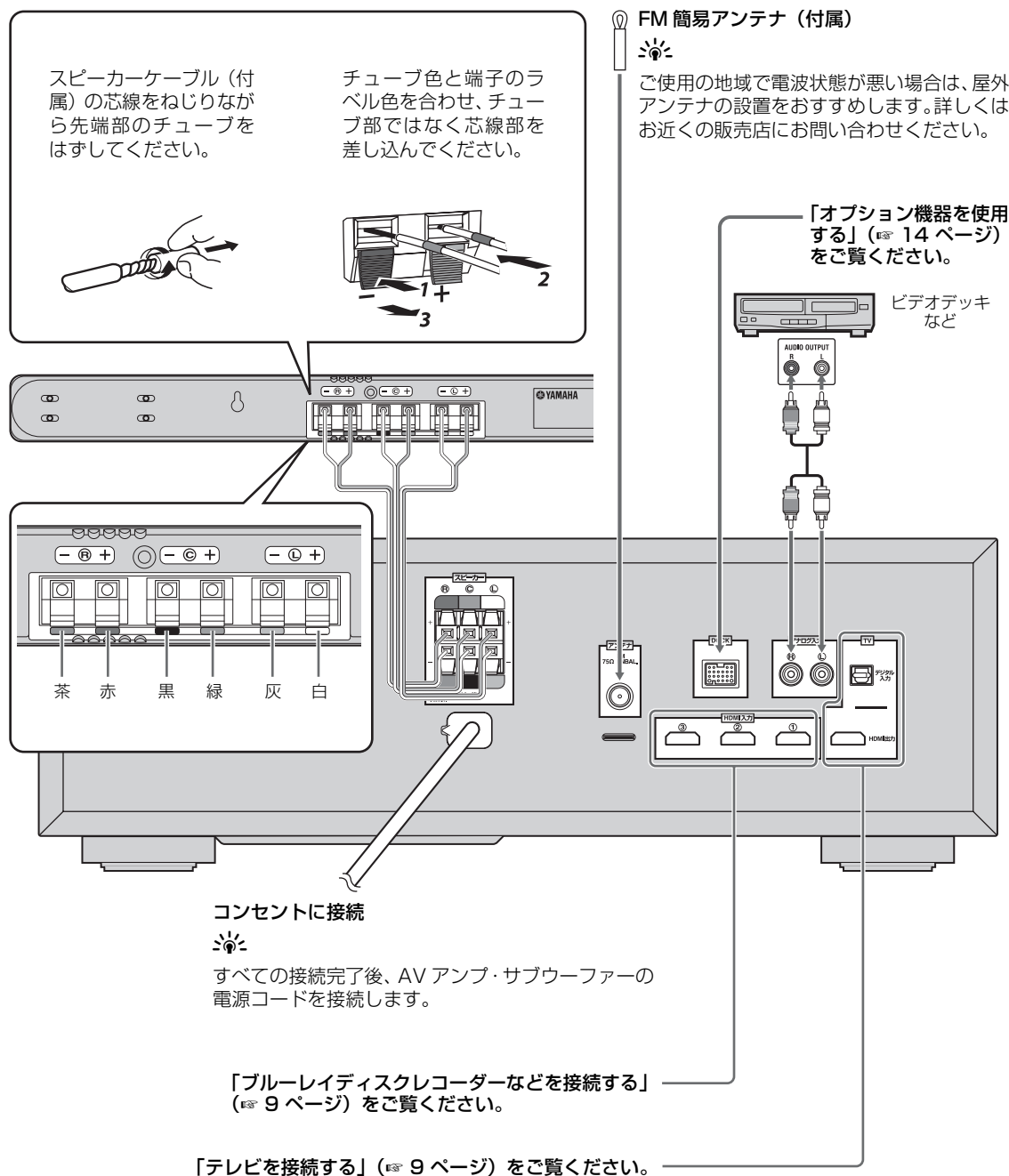
スピーカー背面の取付用ネジ穴を使用して、市販のラックなどに設置することも可能です。

ご注意

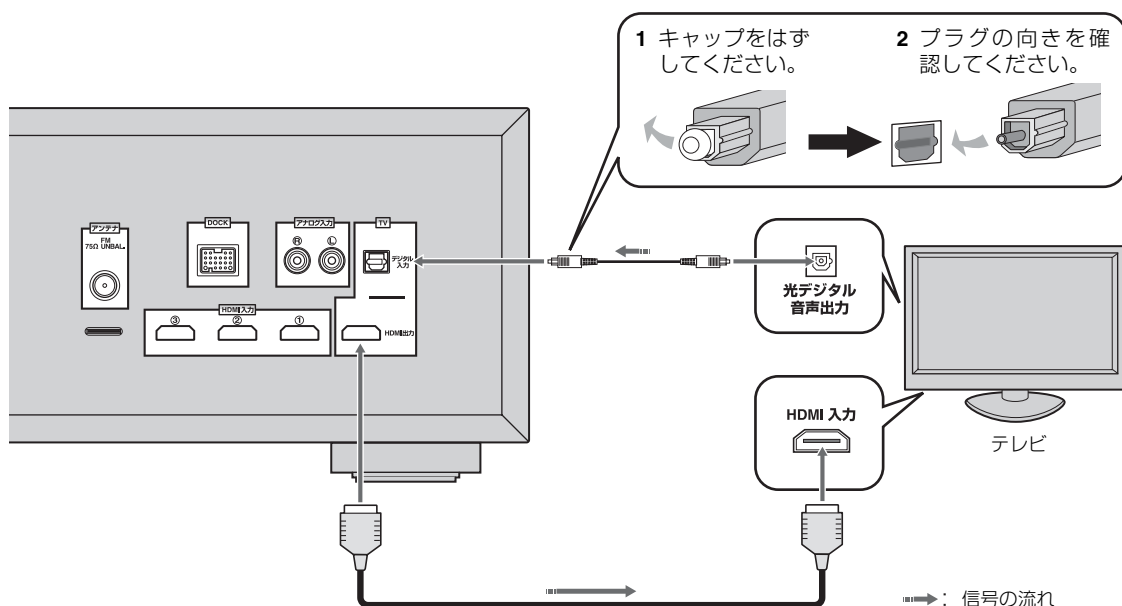
- スピーカーはラックや壁に設置してください。しっくいやベニヤ板のような弱い材質の壁には設置しないでください。スピーカーが落下する原因となります。
- スピーカーを十分に支えられる市販のネジを使用してください。
- 設置する前に、ネジを確認してください。規定より短いネジやくぎ、両面テープのご使用はスピーカーが落下する原因となります。
- スピーカー設置の際は、スピーカーケーブルを必ず固定してください。誤って手や足に引っ掛かると、スピーカーが落下する原因となります。
- 設置後、スピーカーがしっかりと固定されていることを確認してください。誤った設置により起きた事故について、弊社は責任を負いかねますのでご了承ください。

接続

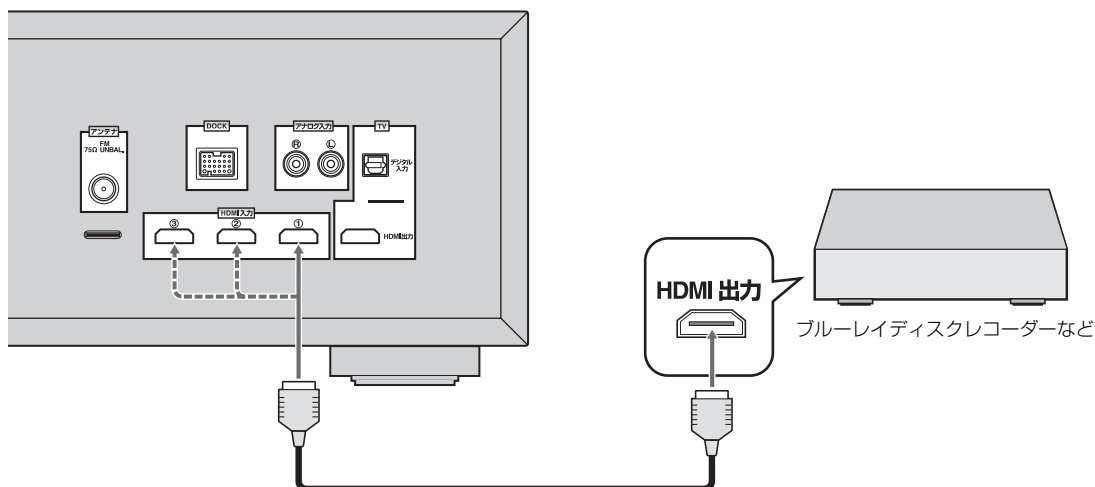
- **電源コードは、すべての接続が完了してから接続してください。**
- **ケーブルプラグや端子に損傷をあたえる原因となりますので、プラグを差し込む際に強い衝撃をあたえないようにしてください。**

概要

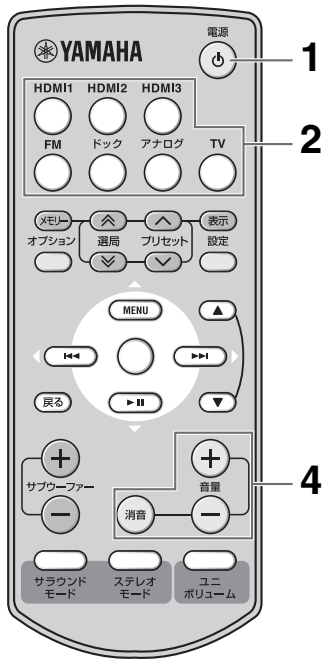
下記の手順に従って接続してください。

テレビを接続する

ブルーレイディスクレコーダーなどをHDMI入力端子に接続しているとき、テレビやプロジェクターなどの機器を本機のHDMI出力端子に接続することができます。
本機からテレビの音声を出力する場合は、付属の光ファイバーケーブルでテレビの光デジタル音声出力端子と本機のデジタル入力端子を接続してください。

アナログ音声で出力する場合は、オーディオケーブルをアナログ入力端子に接続してください。

ブルーレイディスクレコーダーなどを接続する

HDMI出力機能のある外部機器と接続することができます。入力端子はHDMI入力 ①、HDMI入力 ②、HDMI入力 ③と３つありますが、各端子に差異はありません。

基本操作

基本操作

すべてのケーブル接続とリモコンの準備が完了したら、下記の手順に従い再生操作を行ってください。

1 **リモコンの⏻（電源）キーを押します。**

電源が入り STATUS（ステータス）インジケーターが緑色に点灯します。

💡
電源をオンにした状態で、何も操作しない状態が 24 時間以上続いた場合、自動的に電源がオフになります。

■ リモコンを使用する

リモコンでAVアンプ・サブウーファーを操作する際は、リモコン赤外線送信部をリモコン受光部に向けます。リモコン操作が可能な範囲は、本体から6m以内です。

ご注意

- リモコンに水や飲み物をこぼさないようご注意ください。
- リモコンを落としたり、強い衝撃を与えたりしないようご注意ください。
- リモコンを以下のような場所に放置しないでください。
  －気温・湿度が高い場所（ヒーターの近くや風呂場など）
  －極端に気温が低い場所
  －ほこりっぽい場所

2 **いずれかの入力キーを押し、再生する機器を選択します。**

3 **選択した外部機器の再生を開始します。**

外部機器について詳しくは、ご使用の機器の説明書を参照してください。

4 **音量（＋ / －）キーを押し、音量を調節します。**

💡
一時的に消音にするにはリモコンの**消音**キーを押します。消音機能を使って再生しているときは、ディスプレイの VOLUME（ボリューム）インジケーターが点滅します。消音を解除するには再度**消音**キーを押すか**音量（＋／－）**キーを押します。

ご注意

HDMI 入力音声をテレビから出力している場合は、リモコンの**音量（＋／－）**キーや**消音**キーを押しても音量は変化しません。

もう一度⏻（電源）キーを押して、本機をスタンバイにします。

HDMI コントロール機能がオンのときは、STATUS（ステータス）インジケーターは赤色に点灯します。HDMI コントロール機能がオフのときは、STATUS（ステータス）インジケーターは消灯します。（☞ 17 ページ）

サウンドモードを楽しむ

サラウンドモード

ヤマハ独自の音場創生技術エアサラウンド・エクストリームを用いて臨場感のある音響効果を楽しむことができます。

リモコンのサラウンドモードキーを押します。

サラウンドモードキーを押すたびに、ディスプレイに表示されるサラウンドモード名が切り替わります。

サラウンドモードについて

MOVIE	ブルーレイディスク等、映画コンテンツの視聴に適しています。
MUSIC	ブルーレイディスク等、音楽コンテンツのに適しています。
TV PROGRAM	スポーツ番組やニュース等の視聴に適しています。
GAME	ゲームを楽しむのに適しています。

入力ごとに設定されたモードを記憶します。他の入力を選択すると、自動的に前回設定されたモードになります。

ステレオモード

2chステレオで再生します。

リモコンのステレオモードキーを押します。

ステレオモードキーを押すたびに、拡張ステレオ機能のオン（EXTENDED STEREO）/オフ（STEREO）が交互に切り替わります。

「STEREO」：音響効果をかけずにステレオで再生します。
「EXTENDED STEREO」：「STEREO」よりも拡がりを感じるサウンドを得られます。

- 初期設定値はオン（EXTENDED STEREO）です。
- 入力ごとに設定を記憶します。

ユニボリューム

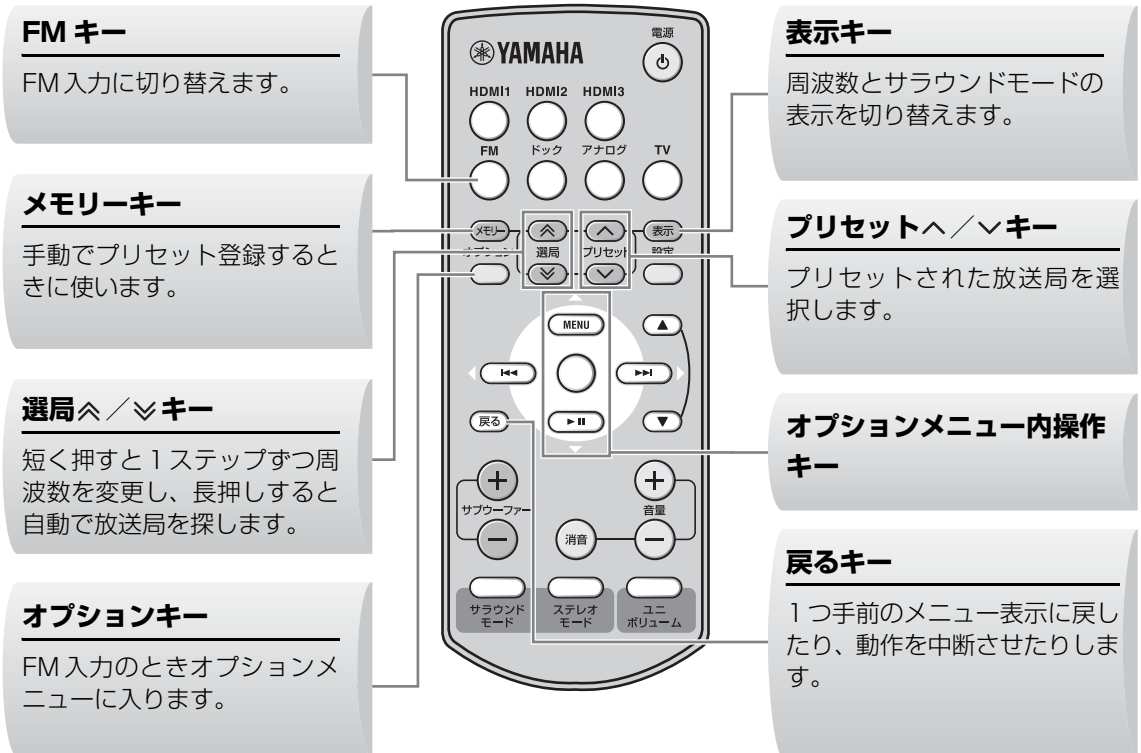
テレビを視聴中、チャンネル間の音量差やCM時の音量が気になる場合に使用します。

リモコンのユニボリュームキーを押してオン／オフを切り替えます。

ユニボリューム機能がオンのときは、UNIVOLUME（ユニボリューム）インジケーターが表示され、テレビの音量の急激な変化を抑えます。

- 入力ごとに設定を記憶します。
- ドック入力時にユニボリュームをオンにすると、コンプレストミュージック・エンハンサー機能は無効になります（ENHANCER（エンハンサー）インジケーターが消灯します）。

FM ラジオを聴く

基本的な選局操作

プリセット選局機能を使う

■ 自動プリセット

FM 放送局を自動的に40 局（01 〜40）まで登録（プリセット）できます。

1 **リモコンの FM キーを押し、FM 入力に切り替えます。**

2 **リモコンのオプションキーを押して、オプションメニューに入ります。**

「AUTO PRESET」が最初の項目で表示されます。

3 **◯（センター）キーを押します。**

プリセット∧/∨キー を繰り返し押して最初に登録するプリセット番号を選ぶことができます。

約5 秒後に現在の周波数から高い周波数に向かって放送局を探し始め、自動的に登録していきます。周波数が登録されたとき、TUNED（チューン）インジケーターが点灯します。

自動プリセットが終了すると、ディスプレイに「Preset Complete」というメッセージが3秒間表示され、その後オプションメニューの項目選択表示に戻ります。

オートサーチ中に**戻る**キーを押すと、自動プリセットを中止します。

ご注意

- すでに放送局が登録されているプリセット番号に新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消去され、新しい放送局に入れ替わります。
- 登録する放送局の数が 40 に満たない場合には、全周波数帯域を一周して停止します。
- 自動プリセットでは、電波の強い FM 放送局だけが登録されます。お好みの放送局が登録されていない場合、またはお好みの番号に登録されていない場合は、手動でお好みの放送局を登録してください。（☞ 13 ページ）

■ 手動プリセット

お好みの放送局を手動で登録するときに使用します。

1 お好みの放送局を受信します。

2 リモコンの**メモリー**キーを押します。

フロントパネルディスプレイに「MANUAL PRESET」と表示され、しばらくすると登録先となるプリセット番号が表示されます。

メモリーキーを 2 秒以上押し続けると、最も番号の小さい空のプリセット番号、または前回登録した次のプリセット番号に放送局を登録できます。

3 **プリセット**∧/∨キーを押して、登録先となるプリセット番号 (01 ～ 40) を選択します。

空のプリセット番号を選ぶとEMPTY（エンプティー）インジケーターが点灯します。登録済みのプリセット番号を選んだ場合は、プリセット番号の右側に登録された周波数が表示されます。

リモコンの**戻る**キーを押す（または約 30 秒間操作をしない）と、登録を中止できます。

4 もう一度**メモリー**キーを押して登録を行います。

■ プリセット放送局の登録を解除する

1 **オプション**キーを押してオプションメニューに入ります。

2 △／▽キーを使って「CLEAR PRESET」と表示させ、◯（センター）キーを押します。

プリセット番号と周波数が表示されます。

リモコンの**戻る**キーを押すと、操作を中止してオプションメニューに戻すことができます。

3 △／▽キーを使って登録を解除したいプリセット番号を選び、◯（センター）キーを押します。

選択したプリセット番号が登録解除されます。複数のプリセット番号を登録解除したい場合は、同じ操作を繰り返してください。操作を終了するには、**オプション**キーを押してください。

■ モノラル受信を行う

お好みの放送局の電波が弱いとき、受信感度を上げるために受信モードを「MONO」に設定し、モノラル音声で受信します。

1 **オプション**キーを押して、オプションメニューに入ります。

2 ▽キーを押して「STEREO/MONO」と表示させ、◯（センター）キーを押します。

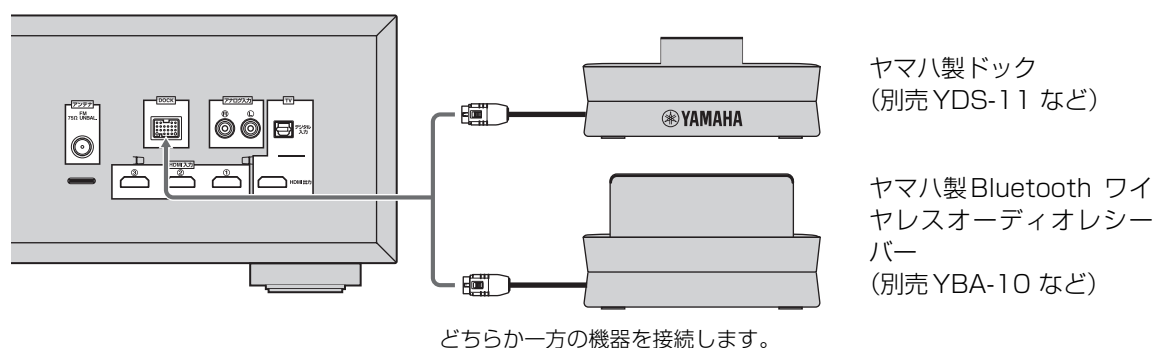
3 △／▽キーを押して、「STEREO」と「MONO」の中から「MONO」を選択します。

オプション機器を使用する

本機は、iPod 設置用ヤマハ製ドック（別売 YDS-11 など）やヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（別売 YBA-10 など）を接続できる DOCK 端子を装備しています。Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーは、本機と Bluetooth 機器（ポータブルオーディオプレーヤー、Bluetooth 搭載のコンピューターなど）をケーブルで接続することなく Bluetooth 機器に保存された音楽を再生できます。接続には専用ケーブルを使用します。

DOCK 入力のときは、コンプレストミュージック・エンハンサー機能が自動的に作動し、MP3 などの圧縮オーディオをダイナミックかつ臨場感豊かに再生します。

DOCK 端子に接続する

どちらか一方の機器を接続します。

iPod™ を再生する

AV アンプ・サブウーファーの DOCK 端子にヤマハ製ドック（別売 YDS-11 など）を接続し iPod をセットすると、iPod に保存された音楽を再生できます。

対応している iPod

iPod（クリックホイール　iPod classic も含む）
iPod nano
iPod mini
iPod touch

充電機能

本機の電源がオフのときでも、AV アンプ・サブウーファーの DOCK 端子に接続したヤマハ製ドックに設置されている iPod を充電します。フロントパネルディスプレイには「Charging」と表示されます。

ご注意

- iPod の種類やソフトウェアのバージョンにより、一部の機能が使えない場合があります。
- iPod 接続時にディスプレイに表示されるメッセージについては、「故障かな？と思ったら」の「iPod」（☞ 21 ページ）をご覧ください。
- あらかじめボリュームを最小にしてから、iPod の着脱を行ってください。
- iPod を再生する際は、ドック入力を選択してください。
- 詳しくは、ヤマハ製ドックの説明書をご覧ください。

Bluetooth™ 機能を使う

■ ペアリング

「ペアリング」とは

ペアリングとは通信を行う機器を本機に登録する操作です。初めてBluetooth 接続を使うときや、登録されていたペアリング情報が削除されたときは、ペアリングを行う必要があります。

セキュリティ確保のため、ペアリング操作には 8 分間の制限時間が設けられています。一度すべての手順を読んでから実際の操作を行うことをおすすめします。

ご注意

詳しくは、ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーの説明書をご覧ください。

1 リモコンのドックキーを押し、ドック入力に切り替えます。

2 ペアリングしたいBluetooth 機器の電源をオンにし、Bluetooth 機器をペアリングモードにします。

詳しくは、お使いのBluetooth機器の説明書を参照してください。

3 オプションキーを押します。

ドック入力のオプションメニューが表示されます。

4 ▽キーを押して「PAIRING」を選び、◯(センター)キーを押します。

Bluetooth 接続が開始されると、ディスプレイに「Searching...」と表示されます。ペアリング中は、ディスプレイのDOCK(ドック) インジケーターが点滅します。

ペアリングをキャンセルするときは、リモコンの**戻る**キーを押します。

5 Bluetooth 機器がヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを認識していることを確認します。

Bluetooth 機器がヤマハ製Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを認識している場合は、Bluetooth 機器のデバイスリストに「YBA-10 YAMAHA」(例)と表示されます。

6 Bluetooth 機器のデバイスリストからヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを選び、Bluetooth 機器にパスキー「0000」を入力します。

■ 接続する

ペアリングが完了したあと、本機またはお使いのBluetooth 機器から接続操作を行うと、相互からの通信が可能となります。本機からの接続操作は、前回接続したBluetooth 機器のみが接続対象となります。

1 リモコンのドックキーを押し、ドック入力に切り替えます。

2 オプションキーを押します。

3 「CONNECT」を選び、◯(センター)キーを押します。

ディスプレイに「Searching...」と表示されます。前回接続したBluetooth 機器が見つかると、ディスプレイに3秒間「BT connected」と表示されます。

- 前回接続した Bluetooth 機器が見つからない場合、ディスプレイに「Not found」と表示されます。
- 前回接続された Bluetooth 機器以外と接続したい場合は、その Bluetooth 機器側から接続操作を行ってください。詳しくは、お使いの Bluetooth 機器の説明書を参照してください。

ご注意

Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーとBluetooth 機器の接続を解除するにはもう一度オプションメニューを表示させ、「Disconnect」を選択して◯(センター)キーを押します。

応用操作

設定メニュー

概要

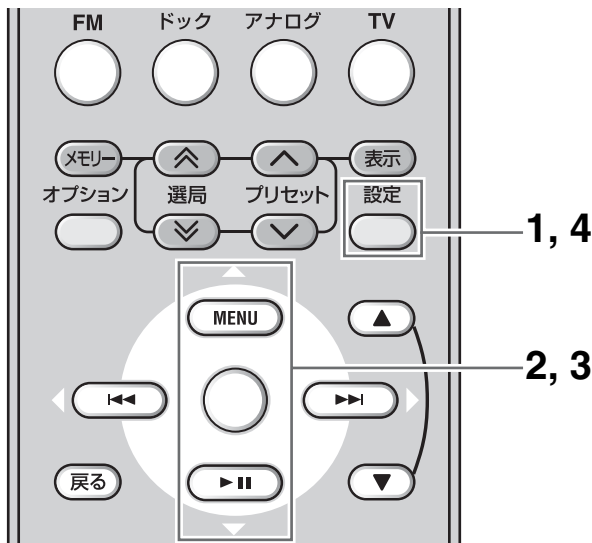
■ 設定メニューリスト

表示	機能（参照）	ページ
1: SW LEVEL	再生中に音量バランスを調節する	☞ P.17
2: CENTER LEVEL		
3: SUR. LEVEL		
4: TONE BASS	低音／高音を調節する（トーンコントロール）	☞ P.17
5: TONE TREBLE		
6: DUAL/MONO	デジタル多重音声を切り替える（二重モノラル音声切替機能）	☞ P.17
7: AUDIO DELAY	映像と音声のタイミングを調整する (オーディオディレイ機能)	☞ P.17
8: HDMI AUDIO	オーディオ出力先を選択する	☞ P.17
9: HDMI CONTROL	HDMI コントロール機能のオン／オフを切り替える	☞ P.17
10: DISPLAY MODE	フロントパネルディスプレイの明るさを変える	☞ P.18
11: SP TYPE	スピーカーの種類を設定する	☞ P.18
12: SP DISTANCE	スピーカー間の設置距離を設定する	☞ P.18

ご注意

「SP TYPE」が初期設定（「BAR」）のとき、「SP DISTANCE」は表示されません。

基本手順

設定メニューを使って、本機の機能を詳細に設定することができます。

1 **設定キーを押してメニューに入ります。**

フロントパネルディスプレイに「SW LEVEL」が表示されます。

2 **△／▽キーを押してメニューを選択し、◯（センター）キーを押します。**

現在の設定値が表示されます。

3 **△／▽キーを押して、各メニューの設定値を調節する。**

△／▽キーを長押しすると、設定値を早く変化させることができます。

4 **設定キーを押して、設定メニューを解除します。**

戻るキーを押すと、一つ手前のメニュー表示に戻ります。

ご注意

30 秒以内に操作が行われない場合、設定メニューは解除されます。

再生中に音量バランスを調節する

バーチャルスピーカーやサブウーファーの音量を調節して、音量バランスを調節します。

メニュー表示

「SW LEVEL」: サブウーファーの音量を調節します。
「CENTER LEVEL」: センタースピーカーの音量を調節します。
「SUR. LEVEL」: バーチャルサラウンド／サラウンドバックスピーカーの音量を調節します。

設定範囲

＋6 ～ －6 （初期設定値：0）

- サブウーファーの音量は**サブウーファー ＋**／**ー**キーを押して調節することもできます。
- サラウンドモードがオフのとき、バーチャルのセンタースピーカーとサラウンド／サラウンドバックスピーカーの調整は無効となります。

低音／高音を調節する（トーンコントロール）

フロントスピーカーから出力される音声の低音域（Bass）と高音域（Treble）のバランスを変更して、お好みの音色に調節します。

メニュー表示

「TONE BASS」: 低音域のスピーカー出力を調節します。
「TONE TREBLE」: 高音域のスピーカー出力を調節します。

設定範囲

＋6 ～ －6 （初期設定値：0）

デジタル多重音声を切り替える（二重モノラル音声切替機能）

BS ／地上デジタル放送の映画、ドラマなどで使われているAAC 信号やHDD レコーダーに録画／録音されているドルビーデジタル信号の音声入力時に、どの音声を出力するか選択します。

メニュー表示

「DUAL/MONO」

設定値（初期設定値：「MAIN」）

「MAIN」: 主音声のみを出力します。
「SUB」: 副音声のみを出力します。
「MAIN＋SUB」: 主音声と副音声の両方を出力します。

映像と音声のタイミングを調整する（オーディオディレイ機能）

接続しているテレビでデジタル処理された映像が、音声よりも遅れて出力されることがあります。この出力タイミングのずれを、音声を遅らせて出力することにより補正します。

メニュー表示

「AUDIO DELAY」

設定範囲（初期設定値：「AUTO」）

「AUTO」: 設定値が「AUTO」で、オーディオディレイの自動補正機能のあるテレビとHDMI 接続している場合、音声の遅延時間を自動的に設定することができます。
0ms ～ 240ms
（10ms 単位で調節できます）

ご注意

入力ごとに設定を記憶します。

オーディオ出力先を選択する

HDMI 音声信号を本機で再生するか、HDMI 端子に接続したテレビで再生するか選択することができます。

メニュー表示

「HDMI AUDIO」

設定値（初期設定値：「AMP」）

「AMP」: 本機で再生します。
「TV」: HDMI 端子に接続したテレビで再生します。

ご注意

- テレビから出力している場合は、**音量＋**／**ー**キーや**消音**キーを押しても音量は変化しません。
- HDMI コントロール機能が「ON」になっているとき、HDMI 音声出力の設定を変更することができません。

HDMI™ コントロール機能のオン／オフを切り替える

HDMI コントロール機能を使用するかしないかを設定することができます。HDMI コントロール機能についてはP.19をご参照ください。

メニュー表示

「HDMI CONTROL」

設定値（初期設定値：「ON」）

「ON」: HDMI コントロール機能を有効にします。
「OFF」: HDMI コントロール機能を無効にします。

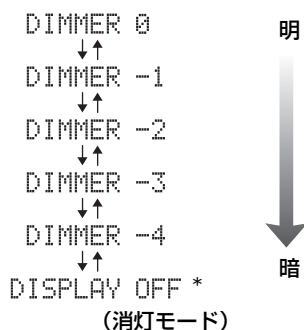
フロントパネルディスプレイの明るさを変える

ディスプレイの明るさを変更します。暗い部屋で映画を鑑賞するときなどに、ディスプレイを消灯モードにすることもできます。

メニュー表示

「DISPLAY MODE」

設定範囲（初期設定値：「DIMMER 0」）

ディスプレイの明るさは下図のように変わります。

* 「DISPLAY OFF」に設定すると、設定メニューを抜けたときに、ディスプレイが消灯します。

ご注意

- 消灯モードが設定されているときに何か操作を行うと、ディスプレイが一時的に点灯します。
- 消灯モードに設定されても、STATUS（ステータス）インジケーターは点灯しています。

スピーカーの種類を設定する

スピーカーを変更したり、追加したりする場合に、接続するスピーカーの種類を設定できます。付属のスピーカーを使用する場合、設定変更の必要はありません。

メニュー表示

「SP TYPE」

設定値 （初期設定値：「BAR」）

「BAR」：バータイプのようなフロントL／R 、センターチャンネルが一体となっているスピーカーを接続する場合。
「2CH」：フロントL／R（2チャンネル）のスピーカーを接続する場合。
「3CH」：フロントL／Rのスピーカーとセンタースピーカーを接続する場合。

ご注意

- 設定は、変更後に本機の電源をスタンバイにし、再びオンにすることで有効になります。
- 「SP DISTANCE」は、設定値が「2CH」、「3CH」のときに表示されます。

スピーカー間の設置距離を設定する

フロントL／R スピーカーの間隔に合った設定を選ぶことで、最適なサラウンド効果を得ることができます。

メニュー表示

「SP DISTANCE」

設定値

「WIDE」：フロントスピーカー間の距離が 150cm 以上の場合。
「NORMAL」：フロントスピーカー間の距離が 80cm ～ 150cm の場合。
「NARROW」：フロントスピーカー間の距離が 80cm 以下の場合。

ご注意

サラウンドモードがオフのときは、本機能を設定しても無効となります。

HDMI™ コントロール機能を使う

HDMI を使った外部機器のコントロール（HDMI コントロール機能）に対応しているテレビ（一部を除く）と本機をHDMI 接続した場合、テレビのリモコンで本機の以下の機能を操作できます。

- 電源のオン／スタンバイ（テレビ連動）
- 音量の調節
- 音声を出力する機器の切り替え（テレビ<—>本機）

- HDMI を使ったコントロール機能に対応しているテレビでも、上記の機能が操作できないものがあります。詳しくはテレビに付属の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI を使ったコントロール機能に対応しているブルーレイディスクレコーダー／ DVD レコーダーなどを HDMI で接続している場合は、それらの機器も連動して操作できます。詳しくはご使用の機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- テレビおよびブルーレイディスクレコーダー、DVD レコーダーなどの機器は、同一メーカーの製品で統一することをおすすめします。
- 接続可能な機器に関する最新の情報は下記 WEB サイトをご覧ください。
  http://www.yamaha.co.jp/product/av/support/hdmi_cec/
- メーカーや機器により、HDMI 機器を登録しなくても使用できるものがあります。
- 「HDMI CONTROL」が「ON」に設定されているとき、テレビの仕様によっては、チャンネルを変えるなどのテレビの操作で、サラウンドモードなどの本機の設定が変更される場合があります。

（手順 1 ～ 3 は HDMI コントロール機能の設定操作です。）

1 **HDMI で接続しているすべての機器の電源をオンにします。**

2 **HDMI 接続しているすべての機器の設定を確認し、コントロール機能を有効にします。**

本機側： 設定メニューの「HDMI CONTROL」が「OFF」のときは、「ON」に設定してください。初期設定値は「ON」となっています。
（☞ 17 ページ）
外部機器側： お使いの機器に付属している取扱説明書をご覧ください。

3 **テレビの電源を一度オフにし、再びオンにします。**

(手順 4 ～ 6 は HDMI 機器のテレビへの登録操作です。接続方法や接続機器を変更した場合は、手順 1 ～ 3 を再度操作してください。)

4 **テレビの入力を、本機に切り替えます。**

5 **本機に接続した、HDMI コントロール機能に対応しているブルーレイディスクレコーダーまたは DVD レコーダーの電源をオンにします。**

6 **本機の入力をブルーレイディスクレコーダーまたはDVD レコーダーに切り替えて、レコーダーの画像が正しく映るかを確認します。**

7 **本機が正しく連動しているか確認します。（テレビのリモコンを使って本機の電源をオンにしたり、音量を調節したりしてください。）**

ご注意

- 本機が動作しない場合は、以下のことをご確認ください。テレビの電源をオン／スタンバイにしたり、電源プラグをコンセントに接続し直したりすると、正常に動作する場合もあります。
  －テレビが本機の HDMI 出力端子に接続されている
  －「HDMI CONTROL」が「ON」に設定されている
  －テレビ側の設定で HDMI コントロール機能が有効になっている

「HDMI CONTROL」が「ON」に設定されているときは、⏻（電源）キーを押しても、完全な電源オフ状態にはならず、HDMI入力端子からHDMI出力端子へ信号が出力されます。

- このとき本機の STATUS（ステータス）インジケーターは赤色に点灯します。
- ⏻（電源）キーを押す前に、視聴したい機器が接続された HDMI 入力端子（HDMI 入力 ① ～ ③）を選択しておく必要があります。

その他の情報

付録

故障かな？と思ったら

使用中に正常に作動しなくなった場合は、まず下記の点をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や下記の対処を行っても正常に作動しない場合は、電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから、お買上げ店またはヤマハ修理ご相談センターまでお問い合わせください。

症状	原因	対策	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう。	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードを コンセントにしっかりと差し込んでください。	8
	スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが本機とスピーカーに正しく接続されているか確認してください。	8
	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）によりフリーズしている。	スタンバイモードにし、コンセントから電源プラグを抜いてください。約 30 秒後にもう一度差し込み、電源を入れてください。	10
スピーカーから音声が出ない。	スピーカーの音量が小さい。	スピーカーの音量を調節してください。	10、17
	消音されている。	リモコンの**消音**キーを押して消音を解除し、音量を調節してください。	10
	再生したい入力が正しく選ばれていない。	再生したい入力を正しく選んでください。	10
	スピーカーケーブルが正しく接続されていない。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されているか確認してください。	8
	設定メニュー「HDMI AUDIO」の設定値が「TV」になっている。	設定メニュー「HDMI AUDIO」の設定値を「AMP」にする。	17
片側のチャンネル音がほとんど出ない。	スピーカーケーブルが正しく接続されていない。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されているか確認してください。	8
フロントスピーカーチャンネル音しか出ない。	サラウンドモードを使用しないで再生している。	**サラウンドモード**キーを押して、音響効果をかけて再生してください。	11
	設定メニュー「SUR. LEVEL」の設定値が最小値になっている。	設定メニュー「SUR. LEVEL」の設定値を調節する。	17
サブウーファーから音声が出ない。	サブウーファーの音量が小さい。	サブウーファーの音量を調節してください。	5、17
	再生しているソースに LFE や低音信号が含まれていない。		
設定した音量が下がっていた。	音量が 70 以上のときに本機の電源がオフになった。	スピーカー保護のため、音量が 70 以上に設定された場合は、次回電源をオンにしたときに音量が自動的に 70 に設定されます。	—
サウンドが弱い、または雑音が入る。	スピーカーケーブルがショートを起こしている。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されているかご確認ください。	8
本機が正常に動作しない。	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	スタンバイモードにし、コンセントから電源プラグを抜いてください。約 30 秒後にもう一度差し込み、電源を入れてください。	10
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている。	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機とそれらの機器を離して設置してください。	—
設定した内容が変わってしまう。	「HDMI CONTROL」が「ON」に設定されているとき、テレビの仕様によっては、チャンネルを変えるなどのテレビの操作で、サラウンドモードなどの本機の設定が変更される場合があります。	「HDMI CONTROL」を「OFF」に設定するか、本機のリモコンで再度設定してください。	19

症状	原因	対策	参照ページ
リモコンで操作できない。	リモコンの操作範囲外で操作している。	リモコンの操作範囲について詳しくは「リモコンを使用する」をご覧ください。	10
	受光部に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池を交換してください。	2

■ HDMI

症状	原因	対策	参照ページ
設定メニュー「AUDIO DELAY」の「AUTO」設定が効かない。	テレビが自動調整機能に対応していない。	手動で（0ms ～ 240ms の値を）設定してください。	17
HDMI コントロール機能が正常に作動しない。	制限台数を超える HDMI 機器を接続している。	接続している HDMI 機器の数を減らしてください。	—
音声や映像が出ない。	接続している HDMI 機器が著作権保護（HDCP）に対応していない。	著作権保護に対応した機器を接続してください。	—

■ チューナー

症状	原因	対策	参照ページ
ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい。	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	アンテナの接続を確認してください。	8
		屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	—
		受信モードを「MONO」に設定してください。	13
FM 専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い。	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	—
自動選局ができない。	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてみてください。	—
		受信モードを「MONO」に設定し、**選局**︿ / ﹀キーを短く押して 1 ステップずつ周波数を変更してください。	12、13

■ iPod

ご注意

ディスプレイに表示される下記のメッセージ以外で不具合がおこった場合は、お使いの iPod の接続を確認してください (☞14 ページ)。

メッセージ	内容	対策	参照ページ
Unknown iPod	本機に対応していない種類の iPod が接続されています。	本機に対応している iPod（クリックホイール）、iPod nano、iPod mini、iPod touch のいずれかをお使いください。	—
iPod connected	iPod がヤマハ製ドック（別売 YDS-11 など）に正しく接続されました。		
Disconnected	iPod がヤマハ製ドック（別売 YDS-11 など）から取り外されました。	iPod をヤマハ製ドック（別売 YDS-11 など）に接続してください。	14
Charging	iPod を充電しています。		

その他の情報

■ Bluetooth

ご注意

ディスプレイに表示される下記のメッセージ以外で不具合がおこった場合は、お使いの Bluetooth 機器を確認してください。

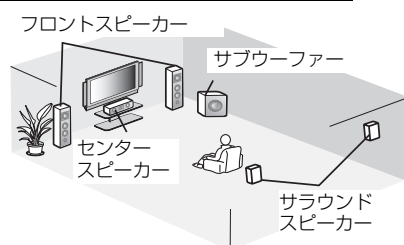
メッセージ	内容	対策	参照ページ
Searching...	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（別売 YBA-10 など）と Bluetooth 機器がペアリングしています。		
	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（別売 YBA-10 など）と Bluetooth 機器が接続を確立しています。		
Completed	ペアリングが完了しました。		
Canceled	ペアリングがキャンセルされました。		
Not found	ペアリングや接続しているときに、Bluetooth 機器が見つかりませんでした。		
BT connected	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（別売 YBA-10 など）と Bluetooth 機器の接続が確立しました。		
Disconnected	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（別売 YBA-10 など）と Bluetooth 機器の接続が切断されました。		
Not available	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（別売 YBA-10 など）と Bluetooth 機器が接続されているときにペアリングしています。	ペアリングはヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（別売 YBA-10 など）と Bluetooth 機器が接続されていないときに行ってください。	15

用語解説

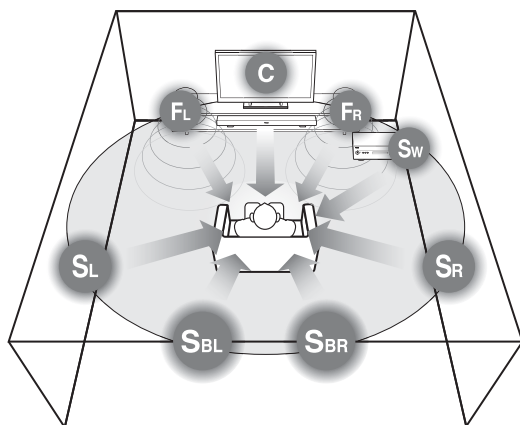
■ エアサラウンド・エクストリーム

本機は新しいバーチャルサラウンド技術とアルゴリズムを搭載しております。壁の反射を利用せず、フロントスピーカーのみで7ch サラウンド効果を生み出すことが可能です。

通常、5.1 チャンネルのサラウンドをお楽しみいただくには、フロントスピーカー（2本）、センタースピーカー（1本）、サラウンドスピーカー（2本）、サブウーファー（1本）が必要です。

標準的な 5.1 チャンネルスピーカーシステム

バーチャル 7.1 チャンネル

エアサラウンド･エクストリーム技術を用いることにより、フロントスピーカーとサブウーファーだけで、サラウンド、サラウンドバックを含む7.1 チャンネルの臨場感をお楽しみ頂くことができます。

本機のサウンドイメージ

本機はスピーカーとAVアンプ・サブウーファーで7.1 チャンネルのサラウンド効果をつくりだします。
C：センタースピーカー
FR、FL：フロントスピーカー
SW：サブウーファー
SR、SL：サラウンド・バーチャルスピーカー
SBR、SBL：サラウンドバック・バーチャルスピーカー

■ サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1 秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）を行う回数をサンプリング周波数といいます。再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

■ チャンネル（ch）

音域の範囲や他の性質の違いによって分類されたオーディオの種類です。
例：7.1 チャンネル

- フロントスピーカー、左（1ch）、右（1ch）
- センタースピーカー（1ch）
- サラウンドスピーカー、左（1ch）、右（1ch）
- サラウンドバックスピーカー、左（1ch）、右（1ch）
- サブウーファー（1ch × 0.1* ＝ 0.1ch）

* さらに超低音を出すためのチャンネルです。音声の帯域が低域のみに制限されているため、0.1と表現されます。

■ ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント3 チャンネル（フロント左／右、センター）と、サラウンド2 チャンネル（サラウンド左／右）、低音域専用のLFE チャンネルの合計5.1 チャンネルで構成されます。サラウンド2 チャンネルがステレオで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の5 チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。

■ ドルビープロロジック II

ドルビープロロジックII はドルビープロロジックを改良した方式で、ドルビーサラウンド方式のソフトに多く採用されています。2 チャンネルで記録された音声を信号処理し､優れた分離感を保ったまま5.1 チャンネル音声に変換します。従来の2 チャンネル音声（モノラル音声を除く）だけで記録された古い映画も、5.1 チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

■ AAC（Advanced Audio Coding）

MPEG-2／MPEG-4 オーディオ規格に含まれるデジタル圧縮オーディオ信号です。BS ／地上デジタル放送で採用されています。最大で5.1 チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。

■ Deep Color

HDMI 1.3 がサポートしている映像技術です。RGBまたはYCBCR 信号の処理を、従来の8 ビットに対して10／12／16 ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたことにより、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上し、カラーバインディング（しま模様状になる色の変化）の少ない画像を楽しめます。

■ DTS

DTS 社が開発したデジタル・サラウンド・フォーマット（音声圧縮技術）で、DVDなどに使用されています。ドルビーデジタルよりも低い圧縮率を採用しており、クリアで厚みのある音質で5.1ch サウンドが再生できます。

■ HDMI

世界業界標準規格であるHDMI（High-Definition Multimedia Interface Specification）規格に準じた、次世代テレビ向けのデジタルインターフェースです。著作権保護技術（HDCP：High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しているため、デジタルビデオ／オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、1本のケーブルで伝送できます。

■ PCM（パルス・コード・モジュレーション）

アナログ信号をデジタル信号に変換する代表的な方式です。PCMは非常に短く区切った単位時間あたりの信号レベルを符号化（コード化）します。MP3形式やATRAC形式のような圧縮処理を用いないことから、リニアPCMとも呼ばれています。CDやDVDオーディオの録音方式などに採用されています。

■ x.v.Color

HDMI 1.3 がサポートしている映像技術です。色空間規格の一つで、sRGB 規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB 規格の色域との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。特に静止画やCG で高い効果が得られます。

主な仕様

■ SR-300

オーディオ部

- 定格出力
  フロント L ／ R (1kHz、1% THD、6Ω) ....45W+45W
  センター (1kHz、1% THD、6Ω) 45W
  サブウーファー (100Hz、1% THD、3Ω) 90W
- 実用最大出力
  フロント L ／ R (1kHz、10% THD、6Ω) ....50W+50W
  センター (1kHz、10% THD、6Ω) 50W
  サブウーファー (100Hz、10% THD、3Ω) 100W

FM チューナー部

- 再生周波数帯域... 76.0MHz 〜 90.0MHz
- アンテナ入力.. 75Ω

サブウーファー

- タイプ ....バスレフ型
  非防磁型
- ユニット .... 13cm コーンタイプ
- 再生周波数帯域...35Hz 〜 150Hz
- インピーダンス... 3Ω

総合

- 電源電圧...AC100V、50/60Hz
- 消費電力...35W
- 待機消費電力
  (HDMI コントロール　オン時) .... 3W 以下
  (HDMI コントロール　オフ時) .... 0.3W 以下
- 寸法（幅×高さ×奥行き）.................... 435 × 151 × 361mm
- 質量 8.6kg

■ NS-BR300

- タイプ .... 密閉型
  非防磁型
- スピーカーユニット（フルレンジ）........4 × 10cm コーン × 3
- インピーダンス...6Ω
- 再生周波数帯域..150Hz 〜 20kHz
- 寸法（幅×高さ×奥行き）
  NS-BR300 .... 800 × 50 × 70mm
  スタンド.. 45 × 70 × 88mm
- 質量 1.5kg

* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

AIR SURROUND XTREME

本機は新しいバーチャルサラウンド技術とアルゴリズムを搭載しております。壁の反射を利用せず、フロントスピーカーのみで 7ch サラウンド効果を生み出すことが可能です。

DOLBY DIGITAL

ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」およびダブル D 記号 DD は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

dts Digital Surround

DTS および DTS Digital Surround はデジタルシアターシステムズの登録商標です。

iPod™

iPod は、米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の商標または登録商標です。

Bluetooth™

Bluetooth は、Bluetooth SIG の登録商標でありヤマハはライセンスに基づき使用しています。

HDMI

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。

x.v.Color™

「x.v.Color」は、ソニー株式会社の商標です。

UniVolume

「ユニボリューム ™」は、ヤマハ株式会社の商標です。

AAC ロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。
以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

対応する信号

■ HDMI 信号について

音声信号

音声フォーマット	詳細	ディスク（例）
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32-96kHz、16/20/24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
マルチチャンネルリニア PCM	8ch、32-96kHz、16/20/24bit	DVD-Audio、ブルーレイディスク、HD DVD
ビットストリーム	Dolby Digital、DTS、AAC	DVD-Video

- 本機へ接続する方法について詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。
- お使いの DVD プレーヤーによっては､コピープロテクトがかかった DVD オーディオを再生する場合､映像信号および音声信号が出力されないことがあります。
- 本機はHDCP 非対応のHDMI またはDVI 端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません｡HDCP 対応の有無については、お使いの HDMI 機器または DVI 機器の取扱説明書をご覧ください。
- ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

映像信号

以下の解像度の映像信号に対応しています。

- 480i/60Hz
- 576i/50Hz
- 480p/60Hz
- 576p/50Hz
- 720p/60Hz, 50Hz
- 1080i/60Hz, 50Hz
- 1080p/60Hz, 50Hz, 24Hz

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

本機の設置や設定、操作に関するお問い合わせ

■ ヤマハお客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器相談窓口

ナビダイヤル（全国共通） 0570-011-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付：月～金曜日 10：00～18：00　土曜日 10：00～17：00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-4830

FAX（053）463-1127

受付：月～金曜日 9：00～18：00　土曜日 9：00～17：00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

修理お持ち込み窓口
受付：月～金曜日 9：00～17：45
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

北海道	〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内 FAX (011)512-6109
首都圏	〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F FAX (03)5762-2125
浜松	〒435-0016 浜松市東区和田町200 ヤマハ(株)和田工場内 FAX (053)462-9244
名古屋	〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2 ヤマハ(株)名古屋倉庫3F FAX (052)652-0043
大阪	〒564-0052 吹田市広芝町10-28 オーク江坂ビルディング2F FAX (06)6330-5535
九州	〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4 FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。 技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。 別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ･リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を!

愛情点検

こんな症状はありませんか?

- 電源コード･プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常･故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検･修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1